FMU NEWS Letter
OCTOBER 06, 2023 Vol.18

TOPIC

「子どもの身体と心の健康を支援する眠育・食育・足育調査」を実施

本学保健科学部は、令和5年9月19日（火）、20日（水）に福島市立平野中学校の生徒220人を対象に「子どもの身体と心の健康を支援する眠育・食育・足育調査」を実施しました。

昨年3月に福島市内の小学生を対象に行った調査に続いて、平野中学校の保健体育の授業の一環として実施したものです。

子どもの心身の健康を支援

本調査は、近年、子どもの肥満や虫歯などの増加が問題になっていることを受け、保健科学部教員らの提案により企画されました。

食育（食事や食習慣が、身体を強くし、心を育てる）、眠育（良質な睡眠が、子どもたちの脳や身体の発達に良い影響を与える）、足育（正しい靴選び、正しい足のケアが、姿勢の安定や運動機能に影響を与える）など、多角的な視点から子どもの心身の健康を支援するために実施しているものです。

調査当日は、筋肉量や脂肪量などの体組成、血圧の測定、食に関するアンケートや足型の採寸、靴サイズ、足の指の力、機器による歩くことの測定などが行われ、参加した生徒からは「あまりやったことがなくて、とても面白かった。歩きやすい靴がどんなものか知ることができてよかった」との感想が寄せられました。

今回の測定の結果は、11月1日（水）に、身体と心の健康に関する授業で生徒の皆さんにお伝えします。

TOPIC

大学院看護学研究科と別科助産学専攻による特別講演『地域の子育て支援と連携～助産師養成課程に期待される役割～』を開催しました

大学院看護学研究科助産師コースと別科助産学専攻は、令和5年9月22日（金）に本学学生に加え、地域の妊産婦の多様なニーズに応え、安全・安心・快適なお産、子育てができるサポート体制を構築することを目的に、地域の助産師、保健師、行政職員等を参加対象として、授業の一環として特別講演を開催しました。

講師には、子育て支援分野の権威である東京大学名誉教授で、臨床育児・保育研究会代表の汐見稔幸氏をお招きし、『地域の子育て支援と連携～助産師養成課程に期待される役割～』と題して、約3時間余、熱のこもったご講義をいただきました。

助産師養成2課程は、今年4月に開設して助産師の養成に努めていますが、今回の特別講演で（一社）福島県助産師会と共催したこと等を契機に地域の関係機関との更なるネットワークの強化につなげ、実習などでの学生教育環境の充実や地域との共同研究の発展に努めていきます。

REPORT

多数傷病者への病院対応研修が本学で開催

令和5年9月3日(日)、本学にて多数傷病者への対応標準化トレーニングコース「令和5年度福島県MCLS大量殺傷型テロ対応病院コース研修」(福島県主催)が開催されました。

本研修の目的は、災害医療または防災業務に従事する消防職員・警察職員・病院職員などが、災害現場並びに医療機関で実施するべき対応について理解を深め、あらゆるテロ・特殊災害の初動を、通常の現場・病院活動の延長線上として適切に行うことにより、傷病者の救命率及び社会復帰率の向上に資することです。

本学附属病院からは大竹徹副病院長、災害医療部長谷川有史部長(放射線災害医療学講座)、看護部武田治美副部長をはじめとする多くの関係者が参加しました。

参加者は、大量殺傷型テロによる災害が発生した際に、医療機関に求められる知識、必要となる準備、並びに具体的な傷病者受け入れの動線・診療スペース、診療担当者などを、座学やグループワークを通じて自ら考え理解を深めるとともに、本研修を通して災害など予期せぬ事態における非常時の適切な対応に加えて、平時から適切な対応策を講じ備えておくことの大切さを学びました。

NEWS01 本学学生が「第55回日本医学教育学会大会」において優秀賞を受賞

令和5年7月29日(土)、本学医学部5年の楯和馬さんが「第55回日本医学教育学会大会」の学生セッションにおいて、優秀賞を受賞しました。

楯和馬さんは本学の細胞統合生理学講座のMD-PhD生として本発表を行いました。また、医学部生有志で構成された、POMkProjectに所属し、福島県内の小中学生を対象に人体に関する体験教室の企画・運営に携わっています。その活動を通して得られた知見を基に、本学会では「医療系学生による健康教育イベントの被災地での開催～来場者にとっての意義と学生への影響～」というテーマで発表しました。

【受賞に際しての本人コメント】

講座の先生方にはお忙しい中、細かいニュアンスからデータ解析、その解釈やデザインまでご指導いただきました。研究室の同志にも朝早くから夜遅くまで推敲を手伝っていただきました。心より御礼申し上げます。

NEWS02 本学学生らの論文が原著論文に対する短報として「Gastroenterology誌」に掲載

本学医学部4年の内山大雅さん(MD-PhDコース、医学部放射線健康管理学講座所属)、同講座の齋藤宏章博士研究員らによる、米国におけるピロリ菌除菌を、菌株の多様性、年齢別の除菌効果及び臨床的一般化可能性の観点から議論した論文が、原著論文に対する短報(Correspondence)として消化器系臨床医学雑誌で世界的に著名な「Gastroenterology誌」ウェブサイトに掲載されました。

Gastroenterology誌に掲載されたDan Li氏らが実施した米国の過去起点コホート研究では、ピロリ菌陽性者に対して除菌を行うことにより、除菌後8年以降の非噴門部胃腺癌(NCCG)の発症のハザード比(hazard ratio)が0.37 (0.14-0.97)と大きく低下することが示されました。

この論文に対する短報の中で、ピロリ菌の株間における発がん性の違いに触れつつ、胃がんの発癌に関して人種差とともに地域差に着目する重要性を提示しました。

また、若年者の除菌の効果に関するデータの解析により、さらにピロリ菌除菌の有効性を検証できると提案しました。

詳細はこちらから ▶▶▶ Web site

TOPIC 「パラ・パワーリフティングチャレンジ記録会 2023」に本学教員と学生が参加

バーベルを胸まで降ろして持ち上げるその3秒にこれまでの努力を全てかけ重量と正確性を競う「パラ・パワーリフティング」。

「福島オープンパラ・パワーリフティングチャレンジ記録会2023(NPO法人日本パラ・パワーリフティング連盟主催)」が9月30日(土)、10月1日(日)に本学福島駅前キャンパスで開催されました。

記録会には、理学療法学科学生4名、医学部学生1名がボランティアとして参加し、障害者スポーツについて理解を深め、障害のある方々とのコミュニケーションについて学びました。

事務局を務めた本学保健科学部理学療法学科遠藤康裕講師は「障害者は、理学療法士からの勧めでパラスポーツを始めることが多く、理学療法士の重要な役割のひとつである」とコメントしました。